

疏水・牟呂用水とウォークイン 2009

— 愛知県新城市 —

1. 豊川と牟呂松原幹線水路

人の知恵を結集して活用されてきた東三河の川「豊川」は長さ 77 km, 流域面積 724 km²。豊川はそれほど大きな規模の川ではありません。また、近隣の矢作川や天竜川が複数の県にまたがって流れているのに対し、豊川は愛知県内に始まり、愛知県内の三河湾に注ぐという特徴があります。それだけ小さな川だと言うこともできますが、だからこそ東三河の人々にとって、「私たちの川」という認識が強いのも事実です。古代から田畑を潤し、人々の生活を支え、また舟運によって人・物・情報の道となってきた豊川。人々はこの大切な「私たちの川」を人の知恵によって徹底して活用し、恩恵を分かち合ってきました。その豊川から取水する用水には今回紹介します牟呂松原幹線水路を流れる「牟呂用水」と「松原用水」があり、東三河地方には、他に「豊川用水」があります。

2. 牟呂用水と松原用水の概要

牟呂用水は、豊橋市神野新田地区の新田開発に伴い、明治 27 年(1894)に完成しました。この用水は豊川の左岸から取水し、開発され新田 1,100 ha 余りを潤しました。一方、牟呂用水よりさらに古い松原用水は、約 440 年前の永禄 10 年(1567)に造られ、豊川の右岸から取水し、豊橋市、豊川市、小坂井町の水田 800 ha 余りを潤しました。松原用水は古くから大井用水と呼ばれており、用水建設に携わった 8 人は物語として伝説化され、豊橋市大村町の八所神社に祀られています。この 2 つの堰は豊川の洪水などでたび

たび壊れて改修や補修を繰り返しましたが、古くなった 2 つの堰を統合して昭和 43 年に現在の牟呂松原頭首工(写真-1)が完成しました。今回は主に牟呂用水について説明します。

3. 牟呂用水の歴史

牟呂用水は、渥美郡牟呂村(現在の豊橋市牟呂町)の西に広がる豊川河口の干潟を干拓してできた神野新田のための用水として開削され、頭首工は、豊川の新城市一畝田の地に造られました。現在の頭首工は三代目で平成 8 年(1996)8 月に完成、豊川右岸の地を灌漑する松原用水と共用の頭首工で牟呂松原頭首工となっています。用水路の長さは共用の牟呂松原幹線水路が 5,271 m, 牟呂用水路は、17,817 m で豊橋市内を縦断しています。また、牟呂用水は、神野新田だけでなく新城市八名井、宝飯郡一宮町金沢(現在の豊川市)、豊橋市賀茂町などの農地を灌漑するとともに、現在は工業用水、水道水としても使われています。牟呂用水の前身は明治 20 年(1887)、賀茂村(現在の豊橋市賀茂町)、金沢村(現在の豊川市)、八名井村(現在の新城市八名井)の 3 カ村による賀茂用水の開削です。農民待望の用水でしたが、同年賀茂用水は暴風雨により壊れてしまいます。一方、山口県から来た実業家毛利祥久は、時の愛知県知事勝間田稔の勧誘に応じて豊川河口の干潟の干拓事業に乗り出しました。その新田のために用水路が必要となり、そこで破壊していた賀茂用水を拡張、ならびに延長して新しい用水路として開削し、明治 21 年 6 月に完工して牟呂用水が誕生しました。毛利祥久の新田開発事業は、明治 23 年(1890)5 月、延長 3 里の堤防工事完工によって完成し、「毛利新田」となりました。しかし、翌年の明治 24 年の濃尾大地震による堤防の破壊、明治 25 年 9 月の暴風雨など大災害により毛利新田は壊滅状態となりました。牟呂用水も同様に一畝田の堰堤や水路、樋管などが破壊されてしまいました。そのため毛利祥久は、新田開発を断念し、明治 26 年(1893)にその権利を名古屋の実業家神野金之助に譲渡し、神野金之助は、新田の築堤工事を服部長七に依頼しました。服部長七は伝統的な左官の技法「たたき」を応用した人造石工法によって堅固な堤防を築き、明治 26 年に滞留を成功させて、築堤を完工させています。牟呂用水の



写真-1 牟呂松原頭首工

修築改修については、当初、神野金之助は新田工事には必要ないと取り組まず、用水を必要とした賀茂村などの農民と係争が起りましたが、まもなく和解して牟呂用水の修築工事は新田堤防工事と平行して進められました。明治27年(1894)に修築工事は完成し、明治29年には竣工記念碑を賀茂神社(豊橋市賀茂町)前に立て、用水竣工を祝っています。用水路の難所であった宇利川を横断する所は、明治20年、伏越樋管として造られましたが同年の暴風雨により破壊、洗堰に改築されました。その洗堰も明治25年の風水害で破壊され、その後、神野三郎発明になる自在運転樋に改築されました。牟呂用水は、当初はいく多の風水害や地震などにより破壊、修築を繰り返してきましたが、神野新田の工事に服部長七による人造石工法が採用されたことは、牟呂用水の工事にも大きな影響を与え、第1号樋管をはじめとして、用水の主要部分は次々と人造石に改められました。その後は水路や樋管、堰堤などの被害はほとんどなくなったようで、人造石構造物の堅固なることが認められました。牟呂用水路全体を調査した結果、3カ所に人造石工法による構造物が今なお健在であることが確認されました。

表-1 水土里ネット牟呂用水の生い立ち

明治20年	賀茂用水開削着工・竣工
明治21年	牟呂用水完成
明治26年	神野金之助に権利譲渡(売却)
明治27年	神野金之助による牟呂用水完成
明治29年	神野新田と命名
明治35年	水利組合条例発布
明治38年	水利組合法制定
明治39年	旧宝飯郡一宮江島村へ分水
明治41年	牟呂用水普通水利組合と改称
昭和24年	水利組合法が廃止され水害防止組合法となる。耕地整理法が廃止され土地改良法となる
昭和27年	牟呂用水土地改良区の誕生
昭和34年	牟呂用水、松原用水の頭首工の統合認可
昭和42年	牟呂松原頭首工の完成
平成2年	豊川用水緊急改築事業(牟呂松原頭首工の完成含む)の認可
平成8年	牟呂松原頭首工の完成
平成11年	豊川二期事業(牟呂松原幹線、牟呂用水幹線含む)の認可
平成21年	豊川二期事業の完成(牟呂用水、松原用水分)

4. 第6回水土里ウォークイン『牟呂用水』2009

水土里ネット牟呂用水は、2009年10月30日、「第6回水土里ウォークイン『牟呂用水』2009」を親子連れを対象として豊橋市内の牟呂用水幹線水路周辺の土地改良施設を見学しながら親子の絆を深め、農業や社会に関わる「水」の大切さ、牟呂用水美化への意識の向上や水土里ネットを知っていただくことを目的に開催しました。

ウォーキングコースでは、普段は歩けない水路の中



写真-2 生き物水槽展示

を実際に歩いてもらい、別の視点で用水を感じてもらうことや、牟呂用水美化への取り組みとしてゴミ袋を持って530(ゴミゼロ)運動をしながらのウォーキングをしてもらいました。農地をすみずみまで潤している疏水は河川の水を水田に導き、食料生産に必要な水を供給しているだけではなく、多様な生物を育んできたこと、水の豊かな農地には、フナ、ドジョウ、カエルなど多様な生物が生息していること、こうした生き物は、人間の手の入った疏水や水田で生息しているものだという事を知ってもらうため水路内に水槽を展示(写真-2)して子供たちに楽しんでいただきました。当日は小学生の児童とその家族85名が参加しました。

5. おわりに

水土里ネット愛知の職員として「第6回水土里ウォークイン『牟呂用水』2009」に協力参加させていただき心温まるできごとがありましたので、お話しさせていただきます。水土里ネット牟呂用水の加藤理事長の開会挨拶で今日は『水の大切さ』を知っていただきたいということと親子の絆を深めていただきたいとお話がありました。すがすがしい気持ちでスタッフの仕事をさせていただき、帰路につく参加者を見送っていた時、お母さんと娘さんの会話が私の耳に飛び込んできました。「お母さん、すごく楽しかったね、来年もきたいね」「来年もこようね」と加藤理事長が開会挨拶で言われた親子の絆がしっかりと育まれた瞬間を感じ、楽しい一日を過ごすことができました。

参 考 文 献

- 1) 豊橋市：流れ悠々四十年。豊川用水(2008)
- 2) 愛知県教育委員会：愛知県の近代化遺産(2005)
- 3) 疏水ネットワーク：心やすらぐ日本の風景 疏水百選、PHP 研究所(2007)

(愛知県土地改良事業団体連合会 小池義夫)